

## 推薦のことば

いまや少子化時代、少ない子どもたちをみんなで見守り、健やかに育つ環境を整えるために予防意識が向上し、0歳児から定期的に歯科受診する子どもたちが増えています。歯科医師・歯科衛生士はそのような子どもや保護者の期待に応えるため、顎顔面・口腔の正常な成長・発育を熟知していることは言うに及ばず、保護者もかかりつけ小児科医も気づかない時期に、乳歯の早期脱落から低ホスファターゼ症を見つけ、小児科医に紹介できる歯科医療人でなければなりません。また、ある種のがんは治る病気であり、小児がん経験者（サバイバー）を診療する機会も増えてきています。

「子どものお口」から、全身の状態、生活状況（虐待を含む）をみることが求められています。それに加えて、歯科医療人は、子どもたちを取り巻くすべての人々に「みんなで見守る」ことの大切さを、世の中に発信できる必要があります。そのための知識・技能をまとめた本書は、誠に優れた、そして必読の書であると確信いたします。

執筆者が女性小児歯科専門指導医・専門医であるというのも本書の特徴であり、読者は随所にその特徴を見つけることができるでしょう。

徳島大学名誉教授  
モンゴル国立医科大学名誉教授  
西野瑞穂

## 刊行にあたって

「わたしが守る・みんなで見守る 子どものお口」をテーマに、月刊デンタルダイヤモンド2018年1月号～2019年12月号までの2年間、公益社団法人日本小児歯科学会（以下、日本小児歯科学会）専門医・専門指導医をもつ女性小児歯科医師を中心に、執筆をお願いしました。その連載では、女性ならではの視点も交えつつ、小児歯科臨床の実際に則した興味深い内容を提示いただきました。

日本小児歯科学会は、すべての子どもが健やかに育つ社会を目指し、「健やか親子21」の推進参加団体として基盤・重点課題に取り組み、身体、心理、社会性の面から子どもと家族を支援し、子どもたちの健康問題のリスクに対応すべく活動しています。また、会員の半数以上が女性で構成されており、若い先生方が継続して就業できるようにリカレント教育を念頭におき、「小児歯科医バンク」や「講演会などの企画・運営」、「託児室設置」といったサポートを行っています。

近年、子どものわずかな変化にも心配を覚え、歯科医院を訪れる保護者が増えています。また、予防や口腔機能改善の意識も高まり、定期健診を兼ねて来院される傾向にあります。そのような多様化する子どもや保護者を迎え入れ、悩みに寄り添うためには、地域の「かかりつけ歯科医」の存在が重要であり、さまざまな工夫や知識の習得が求められています。

前述の連載は読者からの反響が大きく、たいへん好評を博しましたことから、デンタルダイヤモンド社より今回の書籍化のお話をいただきました。書籍化にあたり、「ベーシック & トピックス」、「治療のレベルアップポイント」、「一歩先を考えるコミュニケーション」の3章に再編し、加筆や新たな項目も加えて、押さえておきたい小児歯科のワザとコツを充実させました。

ぜひ本書を多くの先生方に楽しくお読みいただき、小児歯科医療の参考になりましたら幸いです。

2021年2月  
監修 高野博子